

基本調査資料

「3月27日の状況等に係る記録用紙」

第1班 (大田原高校)

菅又久雄 p 1

第2班 (真岡高校)

渡辺浩典 p 3

第3班 (矢板東高校・那須清峰高校)

澤村哲史 p 7

本嶋佑己 p 11

手塚勝紀 p 13

第4班 (矢板中央高校・宇都宮高校)

[REDACTED] p 15

[REDACTED] p 23

第5班 (真岡女子高校・矢板東高校)

小林朋生 p 29

待機

猪瀬修一 p 37

池間明徳 p 41

平成28年度春山安全技術講習会時の3/27(月)の動きについて

真岡高校 菅又久雄

3/25(土)

夕方 17:00～の実技講師打ち合わせで、天気予報から講習会期間中の26日(日)午後から27日(月)朝にかけて天気が崩れることを確認しあった。

3/26(日)

1班は全員が大田原高校生で、日光白根山への冬山合宿経験者であり、9年連続インターハイ出場しており、十分な体力がある。

15:00 この日の実技講習終了時に委員長猪瀬、実技講習CL菅又、前委員長渡辺の3人(登山経験が長い者)で、次の日の行動について27日朝6:00の様子を見て決めることにした。

3/27(月)

5:00 起床 前日夜からの雪で約15cmの積雪を確認したが、起床時には小雪がわずかに降る程度。風は期間中3日間を通してほとんどなかった。

6:00 朝食

6:15 本部より各学校に、テント内で待機の連絡あり。

6:15～6:30 猪瀬、菅又、渡辺3名で本日の天候や状態を確認し、行動を相談。本来なら7:00～11:00に茶白岳登山(スキー場…峠の茶屋…峰の茶屋跡…茶白岳の往復)の予定であったが、出発時刻を遅らせたことと、テントの撤収に時間がかかることが予想されたため終了時刻も早めた方がいいとの意見から、1時間半～2時間のコースを検討。案の一つとして峰の茶屋跡近くまでの往復も提案したが、話し合いによって、より短い時間ででき、前日の講習でやったキックステップによる歩行技術の練習にもなるので、スキー場周辺での行動に変更することになった。

6:50 各学校に7:30にサブ行動、前日と同じ装備(スノースコップ、ザイル、スリング等)でセンターハウス前に集合との連絡。

7:30 センターハウス前集合 この時の天気も小雪がわずかに降る程度で風はあまりなく、視界もセンターハウスから第1ゲレンデの大きな木の先の方まで見えるほど。

7:30～7:45 実技講師打ち合わせで行動を確認。班ごとの行動とする。スキー場周辺でキックステップやラッセルの練習をして、9:30にはセンターハウス前に戻るように指示。その際スキー場の第1ゲレンデの一番奥の斜面は急で雪崩の可能性もあるので近づかない事とした。

7:50 行動開始 1班 大田原高校生徒12名、大田原高毛塚教諭、真岡高菅又の計14名 第1ゲレンデの中ほどにある大きな木まで、横並びでキックステップを意識しな

がら登ることを指示。

- 8:00 2班は大きな木の少し先から左側の樹林帯に入った。1班は大きな木からは1列になって行動。大田原高校の2年生が前、1年生が後ろ、毛塙教諭、菅又の順で左側の樹林帯に入って登る。1班の後ろに3班、4班が続き、5班は第2ゲレンデの方に向かった。
- 8:20 尾根に出て、樹林帯の斜面で休憩。その際に、雪を掘って雪の層と状態を確認させた。
- 8:30 樹林帯を抜け、雪面に出たところで、いったん止まるように指示。視界は前方の岩からかなり下にいる他の班までよく見えた。風もほとんどなかった。1班の前の方のメンバーから、休憩して間もないのでもう少し進みたいということで先に進んだ。
- 8:35 小さな木が数本生えているところで止まるように指示し、ここまでにしようと言つたが、前のメンバーからもう少しだけ進みたいとの意見があり、少し進ませた。
- 8:40 やや急な斜面になる手前で止まるように指示し、この先は少し急になるし危ないので戻るように指示したが、生徒たちが岩まで行きたいと言ってきた。少し考えたが、雪の状態や天候から大丈夫だろうと判断し、岩の近くまで行って帰ることにした。
- 8:43 雪崩発生 一瞬下を向いた後、前の人のがしかかって來たので、私も後ろに倒れ、雪とともに転がされた。私は途中体が木に激突した。私が埋まった時、斜面の下が頭になり、体全体は約50cm埋まつたものの、顔付近は15cmほどだったため、右手も外に出せ、顔の周りの雪をはらうことができた。背中のザックから無線で声が聞こえたが、動くことができず、応答はできなかつた。また、体や足を少しずつ動かしたが自力脱出はできなかつた。真岡高の渡辺先生が本部の猪瀬先生を呼んでいたが、その時は連絡がつかないようであった。(よく分からないが)約10分後、矢板中央高の■先生が掘り起こしてくれたので、私もすぐに、数メートル先で顔が出ていた高校生の掘り出しを手伝つたが、木に激突した影響で左胸が痛くて動けなくなってしまった(左胸に入れておいた携帯電話も壊れた)。渡辺先生が救助要請をするかと聞いたのでお願いしますと言つた。しばらくして、救助隊が来て、先生や生徒らと一緒にまだ発見できていない人を捜していた。私も班の人数やメンバーを連絡した。DMATのドクターたちがトリアージタグをつけていき、私が搬送されたのは最後の方だったが、その前に全員が発見され掘り出された。8名が黒タグと聞き、状況を理解し絶望した。私は那須日赤病院に運ばれ、肋骨4本骨折、左下の肺挫滅、左上部気胸、腹部血腫と診断され、ICUで治療を受けた。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	真岡 高等学校		
顧問氏名	渡辺 浩典	記載者氏名	渡辺 佐知夫
時系列 (覚えていれば時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
※27日の起床から帰宅まで	※天候や場所、自己や生徒、他の教員の発言や行動等について、時系列で具体的に記載する。(本人以外の言動については、氏名も記載)		
5:00	起床 委員長(猪瀬:旅館ニューおおたか)、副委員長(菅又:講習会チーフ、スキー場付近テント内) 渡辺(前委員長、同テント内)で訓練の内容について協議		
6:00	猪瀬から菅又に電話連絡 渡辺はトイレに行っており、その場には不在 渡辺がトイレから戻り菅又と協議 ・茶臼岳への登山の中止 ・ゲレンデ付近の安全な場所でラッセル訓練を行う ・2日目の班編制で行動を行う ・7:00集合を7:30集合に変更		具体的な言葉のやりとりは不明
	※安全であると判断した根拠 ・風邪が弱い ・ゲレンデ付近の積雪が15CM程度 ・ゲレンデ横の樹林の尾根なら雪崩の危険はないと思った		
7:30	レストハウス前集合 ・各班講師打合せ 進行及び説明:猪瀬 ① 菅又 - 大田原高校 ② 渡辺 - 真岡高校 ③ [] - 矢板中央 ④ 沢村 - 矢板東 ⑤ 小林 - 真岡女子 ・変更された行動内容の説明(菅又・猪瀬) ・危険箇所の指摘(これまでの知識と経験から) (渡辺) ・危険箇所についての具体的説明と付近で行動しないようにという指示(猪瀬) ※この際上記危険箇所の上部は視界不良であり、		

実際に雪崩の起こった場所は見えていなかった。

班別の集合

②宇高は前日の訓練で装備がぬれているため
本訓練には不参加を決定

8:00

出発

菅又 「2班は茶臼岳まで行くぞ」

生徒たち「マジですか」

渡辺 「先生はいつでも本気だぞ」

と冗談を交わした

②の行動

ゲレンデから左方樹林の尾根にてラッセル行動
開始

先頭が斜面の傾斜が緩やかになったところに到達したときそこで止まって待機するように指示(渡辺)

順次後続が到着

渡辺到着後 []、[]を待つ

その間に風が出てきたことにより下山を決断

最後に上がっててきた[]の状況(すぐに行動できるかどうか)を確認し尾根伝いに下山を開始

その際上方に①と思われる隊列を確認している。

8:30

~9:30

雪崩発生

雪崩に巻き込まれる

渡辺は自力脱出

[]の姿を確認

③の[]が[]の近くにきてくれた

渡辺が②の他のメンバーを捜索

この際上方に③④のメンバーの姿を確認→人員点呼をしていた模様

渡辺が[]と思われる教員に真高の生徒がいるかどうかの確認を依頼

[]と思われる教員が「真高いるか」と声を上げた

[]と思われる教員から「真高全員います。」との報告を受けた。

[]と思われる教員から「[]がいない」との報告有り

[]と思われる教員から「やはりいました」との報告有り

③④班の人員点呼完了を確認

渡辺が近くにいた[]に雪崩の第2派を避けるために沢筋から離れて尾根上に待機するように指示。

渡辺は②の集団の中の後方に位置

これらの動きの中で主任講師の菅又を無線で呼ぶが応答無し
→本部の猪瀬を無線で呼ぶが応答無し

同様の指示を③④に指示。この指示が真高生にも届いたと思われる

この際真高生の中に自力歩行ができない生徒がいるとの報告を[]と思われる教員、あるいは真高リーダーの[]から受けた。

この時点で雪崩に巻き戻されたのは②～④と判断

尾根の向こう側から「おーい」との声が聞こえたので②～④の誰かの声であると判断

本部と連絡が取れない、自力歩行ができない者がいることから自力歩行が可能な者が不可能な者を補助しながら自力で下山する必要があると判断した。

渡辺が他の者を待機させたまま一人で下山ルートの搜索を開始

ある程度降りて下山の見込みがついたとところで引き返す

戻った際に、先ほど「おーい」の声がした方向で[]が菅又を救出、他の教員が他のメンバー数名の救助活動をしていることを確認した。その時点で①も雪崩に巻き込まれていたことを認識する

自力脱出ができないので②～④よりも深刻な状況であることを認識した

救助要請の必要性を感じ、小林に無線で救助要請を依頼

自身も救出活動に加わる

小林「本部とつながらない」との無線が入る

渡辺「本部まで直接行って救助要請をしてもらってくれ」と指示する

そうこうしているうちに本部とも無線がつながる

渡辺が無線で位置を猪瀬に伝える

救助隊が上がってくとき「おーい」と発声

救助隊「見えますか?」との問い合わせ

笛を持っている者に笛を吹くように指示

救助隊が到着

救出作業開始

自力歩行が可能な者は救助隊と共に下山

自力歩行不可能であった[]と共に下山

レストハウスに到着後学校への電話連絡

警察の事情聴取

搬送されていない生徒たちの帰りの手段の手配等

他の生徒と共に病院に搬送されて診察を受ける
船越（真高教員、現地派遣教諭）に生徒たちを

①からは無線連絡がないので①は行動していると推測し「おーい」の声は②～④の誰かの者と判断←真高の人員確認の際に確認が2転3転していたことから

どの時点かは不明確だが渡辺の無線連絡を小林が傍受していて小林から呼びかけがありそれに応答

[]は自力歩行不能者のうち最後の救出者

12:00頃

15:10

	預ける	
21:30	<p>小林浩二（真高教員、現地派遣教諭）の車で大田原高校に移動</p> <p>植木部長、猪瀬委員長に[]と共に上記のことと報告</p> <p>その際に雪崩の状況を改めて把握した。</p> <p>同席していた山岳連盟の方から保険のことなどについてアドバイスを受けた</p> <p>県教委の先生方と記者発表についての打合せをした。</p>	
3:30	大田原高校発（大田原高校の教員の車）	
5:00	真高到着 事故の概略をについて報告をし帰宅	
	その他、関連するがあれば記入してください。	打合せの内容等は断片的な記憶しか残っていない。

〔記録に当たっての配慮事項〕

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 箇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	栃木県立矢板東高等学校		
顧問氏名	澤村哲史	記載者氏名	澤村哲史・永山一夫
時系列 (覚えていれば時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
起床 (5時)	<ul style="list-style-type: none"> ・テントから外を見たら膝丈くらいの雪が積もり、少し強めの雪が降っていた ・起床して30分頃、生徒と雪の量を確認（起床時と同じくらいの降雪） 		
連絡 (6時半) (7時半)	<ul style="list-style-type: none"> ・6時に朝食を食べ、出発の準備をする。 ・菅又先生が、「テント内に待機するように」との連絡を各テントに伝える。 ・菅又先生が、「8時よりラッセル訓練を行うので、それまでにロッジに集合」との連絡を各テントに伝える。 ・矢板東の各テントに、菅又先生から言われた指示を確認のため伝える。 		
集合 (8時)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と顧問が本部に集合し、人数確認を行う。 ・天候は雪が起床時よりは弱まっており、風は強くはなかった。 ・猪瀬先生が「3班の関谷先生の代わりに、澤村先生が入ってください」と言ったと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・言われたのは事実だが、誰が言ったのかは定かではない
活動開始 (8時05分頃)	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問の誰か、または複数の誰かが顧問全員に「雪が多いから十分気をつけよう。あまり上の方には行き過ぎないようにしよう」と言った。 ・誰かが全体に、「ラッセルする際にはなるべく前の人とかぶらない形で進んでいこう」と言った。 ・矢板東の生徒に「忘れ物はないか」と確認した。 ・1班と2班が最初に出発。その後3、4班が出発した。ほぼ横一列になり、前に進む。雪の深さは膝上くらいだったか。とても進みづらい印象を受けた。 ・比較的ゆっくりとしたペースで進んだ（女子の5班とほぼ平行するような形）。1、2班は速めのスピードであった。5班は左方向のゲレンデに向かい、1～4班は正面のゲレンデ方向に向かった。 ・3班がゲレンデの真ん中まで歩いたくらいところで、1、2班は林に到着しているような状況 		

- 林に進入
(8時20分頃)
- 休憩
(8時30分頃)
- 再度出発
(8時35分頃)
- 雪崩発生
(8時45分頃)
- であった。そのうちの一つの班が、正面から林に入り、もう一つが林の少し右側から進入したのが見えた。視界は悪くなかったが、距離があったのでそのどちらが1班か、2班かは不明。
- ・ゲレンデの真ん中と入る林の間に大きな木があった。3班が林の手前で休憩をしていたときに、4班は、大きな木のところで休憩した。休憩時間は2、3分くらいか。
 - ・隊列を1列になり、先頭は交代しながら進むように班員に伝える。3班は前が矢板東、後ろが那須清峰であった。
 - ・1班か2班が進んだ、林の正面から進入した。通った道であったので足場がある程度出来ていたので3班にとって歩きやすかった。
 - ・最初歩くペースが少し速かったので、「もっとゆっくり歩くように」と班員に何度も指示。班で最初に一番前にいたのが [] だったと思う。
 - ・次に先頭が [] に変わったと思う。 [] は澤村の後ろにつく。そのときも、「もっとゆっくり歩け」と何度も指示をする。
 - ・少し開けたところで、5分ほど3班休憩。少し下で4班休憩。ここで、矢板中央の [] 先生と「9時半前にはロッジに戻りたいので、あと少し行ったら下山しよう」との旨を話す。
 - ・先頭が変わり5分か10分くらい登る。この時点で上から1班、2班、3班、4班の順番で登っていた。1班は結構高いところにいた（印象として100メートルくらい上にいるような感じ）。少し下って2班。また少し下って、3班と4班がほぼ一緒に固まって尾根を歩いている状況だった。
 - ・風は強くはなかった。
 - ・音は何もなく、気づいたときには雪の壁が目の前に来ているような感じであった。流される瞬間に後ろを振り向き、エアポケットを作った。印象として15メートルから20メートルくらい流されたように思う。
 - ・うつぶせのような状態でほぼ全身が雪の中にあった。雪から脱出し、近くで埋まっている生徒を皆で引き出し、3班の人員と怪我の状況等を確認。すぐに無線で「3班全員無事」との旨連絡した。
 - ・4班も近くに流されていた。「4班全員無事」との連絡を [] 先生から無線で受ける。
 - ・3、4班に「なるべく高いところに移動し、なるべく暖かい格好で待機」と伝える。

[] と [] が先頭にいたのは確認した。順番は自信がない。

・誰が3班の先頭になったかは覚えていない。

- ・ 真岡高校の渡辺先生から、真岡高校の人員を確認してもらいたいとの連絡を受ける。全員確認は出来たが、重傷者と思われる生徒もいた。そのうちの一人に防寒具を渡し、怪我の状況等を確認した（渡辺先生は大田原高校の生徒たちが流された沢の方に下りていたと思われるため真岡高校の人員を確認する指示を出したと思われる）。
- ・ 顧問たちは太田原高校の生徒たちが沢の方にいるということで搜索を始める。それ以外の生徒は、今いる尾根の高いところで暖かい場所で待機。
- ・ 無線で逐一一本部または下山している者に状況は伝えていた。誰と通信したかは覚えていない。
- ・ ピッケル等でいる場所を探しながら、シャベルで雪を掘り搜索した。
- ・ この時点で自分の目でみた顧問は、菅又先生（重傷を負っているようで動けなかった）、渡辺先生、本嶋先生、手塚先生、■先生、■先生であった。私を含め菅又先生以外の者で搜索に当たった。
- ・ 渡辺先生が、メインで無線で情報交換を行っていた。■先生が中心となり生徒の氏名の確認等をおこなっていた。
- ・ いつ連絡が行われたかは不明であるが、サイレンの音が聞こえた。現在地がどこかなどを無線で渡辺先生が伝えた。その間も生存者の安全を確認しながら、搜索に当たった。
- ・ この時点で、2人がまだ見つかっていない状況であったと思う。それ以外は体の一部または全身は確認できていた。
- 下山（12時前くらいか）
- ・ 救急隊に怪我等の程度が確認され、自力で帰れる者は下山することになる。下山する際は2つのパーティーに分かれ先導は救急隊、最後尾は救急隊または教員で下山することになった。途中でリフトを使う（澤村は第一パーティーの最後尾）
- ・ この時点で再度、班員の怪我の程度と所在を確認。
- ロッジ到着（13時頃）
- ・ 怪我の程度を示すカードをもらい、ロッジの2階で待機。救急隊その他が、逐一怪我等の程度を確認。
- ・ 13時過ぎに矢板東教頭に「本校生徒は皆無事である」旨を連絡。
- ・ 逐一、矢板東の生徒の健康状態等を確認。保護者に連絡するようにも伝える。
- ・ 14時すぎ頃、矢板東の顧問の関谷が応援部隊として那須に向かう。

キャンプ場出発（18時半頃か）	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教員全員（雪崩の被害を受けなかった者は除く）が那須日赤に行くことになった。その旨、学校に連絡。 矢板東は男子隊が18時半頃病院に向かった。女子は澤村が病院まで送り、男子は病院で検査等をしてもらった。関谷とともに全員の生徒の保護者に引き渡した（[]は関谷が自宅まで送り届けた）
学校帰着	<ul style="list-style-type: none"> 22時20分頃関谷とともに矢板東に帰着。校長・教頭に報告。 23時50分頃学校を出る。

その他、関連することがあれば記入してください。

〔記録に当たっての配慮事項〕

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 箇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	栃木県立那須清峰高等学校		
顧問氏名	本嶋佑己	記載者氏名	教頭 小池 学
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
※27日の起床 から帰宅まで	※天候や場所、自己や生徒、他の教員の発言や行 動等について、時系列で具体的に記載する。(本 人以外の言動については、氏名も記載)		
5:00	起床、食事 天候：雪 猪瀬委員長から電話。「本部にいるが、テントサ イトの積雪はどうか。」 本嶋先生は「テントから出てトイレに行くもの大 変なので今日は無理だと思います。」と回答した。 猪瀬委員長「菅又・渡辺先生に本部に電話するよ うに伝えてほしい。」 本嶋先生は菅又・渡辺先生のテントに行って伝 えた。		
6:30頃	菅又先生からテントで待機の連絡あり		
7:00前	菅又先生から、昨日と同じ装備で7:30に集合 にするようにとの連絡あり。		
7:30	管理事務所前に班別に集合。ラッセル訓練を行 うことが伝えられる。3班講師の関谷先生がいなか ったので猪瀬委員長に問い合わせると、矢板東の 澤村先生が講師を務めると返答があった。 1班からスタートした。 天候：雪、風強い 3班は樹林帯の前までは横並びで歩いて行った。 沢筋では先頭を変えながらラッセルした。 矢板東－澤村先生－那須清峰－手塚先生・本嶋先 生の順。最後尾は常に本嶋先生だった。 途中樹林帯が終わるあたりで5～10分休憩を挟 んだ。		関谷先生は学校のオ リエンテーションの ため下山した。
8:30	ラッセルを再開して3～4分後、全員が雪崩に巻 き込まれた。先頭の生徒は、本嶋先生の後ろまで 流された。 すぐ前の埋まっている生徒を掘り起こした。 3班は、自力で、あるいはお互いに助け合って脱 出することができた。 本嶋先生、澤村先生が生徒の名前を呼んで3班が 全員いることを確認した。那須清峰は生徒4名、		

	教員2名。安否の確認は雪崩発生から5分くらい経った頃。
	生徒を少し高い安全な場所に移動させた。
	3班の右の尾根筋にいた2班の真高の一一番高い所の生徒が「一人埋まっている」と助けを呼んでいた。
	本嶋先生がその場に行き掘り出したが、歩けず、痛みを訴えていた。
	4班の[]先生が「真高はいるかと確認していた。」
	姿は見えなかつたが、2班の渡辺先生が「真高はいるか」と叫んでいた。
	本嶋先生は、負傷した生徒を背負って20mくらい下ったところで、大田原高の生存生徒と渡辺先生が雪を掘っているのが見え、1班が埋まっていることが分かつた。
10:08	近くにいた教員が大田原高の捜索にあたつた。
	3人くらい掘り起こしたところで、本嶋先生は2次災害が心配で、いったん真高、那須清峰、矢板東の様子を確認に戻つた。
11:00頃	本嶋先生は教頭から着信があつたことに気づき、折り返し教頭の携帯に電話をし、那須清峰の全員無事を報告した後に捜索に戻つた。
11:08	救助隊が到着したので、捜索をやめて生徒と共に管理事務所に向かつた。
11:27	本嶋先生は学校に連絡。「本校生は斜面の下に降りて安全な所にいる。」
13:31	本嶋先生は学校に連絡。「本校生、引率も無事。保護者へ無事の連絡をしている。」
18:20	本嶋先生は学校に連絡。「緊急対策本部まで下山し休んでいる。今後の予定は未定だが、分かり次第連絡する。」
20:00頃	本嶋先生は学校に連絡。「生徒全員をバス2便で日赤へ搬送する。清峰の生徒は全員第1便になる。」
21:05頃	日赤到着。 帰宅。

その他、関連することがあれば記入してください。

[記録に当たつての配慮事項]

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 箇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	栃木県立那須清峰高等学校		
顧問氏名	手塚 勝紀	記載者氏名	教頭 小池 学
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
※27日の起床 から帰宅まで	※天候や場所、自己や生徒、他の教員の発言や行 動等について、時系列で具体的に記載する。(本 人以外の言動については、氏名も記載)		
5:00	起床、食事 天候：雪、風はあまり強くなかった。 車の中に入れてあった自分のピッケル、登山靴を 取りに行った。車で作業をしている時に本部から 本嶋先生に電話があった。		
6:00 過ぎ	洗面、食事 誰かは分からないが、大きな声で7:30に集合 の声がかかった。 各班の責任者が集まっているかどうかの確認があ った。 責任者が集まって話し合いがあったと思う。		
6:50	集合後挨拶があり、予定が伝えられた。ラッセル 訓練をやることはこの時初めて知った。 ゲレンデを進み、樹林帯の前で休憩した。 樹林帯に入るところで、先頭を交換しながら進む ように登り方を変更した。		
7:30	休憩ではないが、一時止まっていたときに雪崩に 巻き込まれた。雪の中に埋まることはなかったが、 7~8m流された。すぐ近くの生徒を助け出した。 那須清峰、矢板東が名前を呼び、学校ごとに安否 確認をした。雪崩から5分以内に確認できた。 那須清峰より上に真高の生徒と先生がいた。		
8:30	埋まっている生徒を生徒が助けているのが分かつ たので、本嶋先生、手塚先生が救助に向かった。 真高の怪我をした生徒を本嶋先生が背負って下ろ した時、大高が見えた。 真高の渡辺先生が「手が空いている先生は来てくれ」と言った。 木の付近にいた真高の生徒を救助し、その後上か ら声をかけながら、ピッケルを雪に刺しながら探し、 当たりがあるところを掘った。 真高の先生と救助した大高の生徒は呼吸している		

	者がいた。
	大高の生徒を全員発見した頃に救助隊が来た。最後に発見したのは毛塚先生で、この時は救助隊が来た後だった。11:30頃まで救助していたと思う。
	全員が発見されてから15分くらいその場に止まっていた。
	救助隊が自力で降りられる生徒を確認し、先導して管理事務所まで降りた。途中、上ってくる救助隊に会い、立ち止まることもあった。
13:00頃	管理事務所に到着した。生徒と一緒に部屋にいたが、時折救助隊が体調の変化について聞いていた。
19:20頃	自分の車で日赤に向かった。
20:40前	日赤到着、診察を受けた。
21:15頃	那須清高峰に行き教頭に報告した。
22:00頃	帰宅した。

その他、関連することがあれば記入してください。

(記録に当たっての配慮事項)

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 箇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	矢板中央	高等学校	
顧問氏名	[REDACTED]	記載者氏名	[REDACTED]
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
5:00	<p>起床 朝食の準備をする。ガスを使ったため、換気を確認する。テント前室の下部の隙間が雪で埋まっていたので、外張りを内側から押し、雪をどかす。</p> <p>朝食後、荷物をまとめ、当初予定されていた茶臼登山（サブ行動）の準備をしつつ、不要なものをまとめてパッキングする。</p> <p>このとき、生徒のテントに向かって、「おはよう」「ガス（換気）注意しろ」と言ったと思う。</p>		
6:00 ごろ	<p>駐車場 パッキングした荷物を車に載せる。</p> <p>那須清峰の本島先生が、電話で話しているのを見る。相手は猪瀬先生だと思う。電話後、本島先生から「指示があるまでテントで待機です」と聞く。私が、「じゃあ（テント場に）言ってきますよ」と言う。</p>		この間の天気はおだやかで、風も感じなかった。
7:20 ごろ	<p>テント場 テントから荷物を持って出てくると本島先生が登山の格好をしていたので、私が「今日（登山）やるんですか？」と聞くと、本島先生が「そうですね」と答える。さらに私が「マジっすか」と聞くと、「マジっす」と答える。</p> <p>このとき、7:30 集合であることを知った。</p>		天候はやや雪がちらついていたと思うが、風は特に感じなかった。
<p>その他、関連することがあれば記入してください。</p>			

〔記録に当たっての配慮事項〕

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 箇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	矢板中央	高等学校
顧問氏名	[REDACTED]	記載者氏名 [REDACTED]
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等	
7:20ごろ	<p>駐車場 車に戻り、■先生に「今日やるみたいですよ」と話すと、「マジで?」といわれる。それに対して、「マジです」と答えたと思う。</p> <p>テント場での本島先生との会話の中で、「昨日と同じ装備」と聞いたので、車の中においてあった、ザイルと登攀用具（カラビナなど）をザックにパッキングします。靴も長靴から登山靴に履き替える。7:30になったので、スパッツを持ってレストハウスへ移動した。</p>	
7:30過ぎ	<p>レストハウス前 レストハウス前には、参加生徒が集合していた。おそらく今回ラッセル訓練をした生徒のうちほぼ全員がいたと思う。</p> <p>私がレストハウスに近づくと、菅又先生から「講師の先生は集まってください」と声がかかる。講師の先生が全員集まつてから、「今回は茶臼登山はなしです」と説明された（おそらく菅又先生からと思う）。あわせて「ラッセル訓練をします」といわれる。</p> <p>渡邊先生から「リフトの上のほうは、雪崩の危険があるので行かないように」といわれる。渡邊先生には、実際にその方向を指しながら説明をしてもらった。</p>	
<p>その他、関連することがあれば記入してください。</p>		

(記録に当たっての配慮事項)

○時系列での記録

○正確な内容（事実と推察は区別する）

○推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入

○箇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	矢板中央	高等学校	
顧問氏名	[REDACTED]	記載者氏名 [REDACTED]	
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
7:30 過ぎ	<p>レストハウス前 各班に分かれて、「点呼を取ってください」といわれたと思う。(誰が言ったかは不明)</p> <p>その指示に従って、矢板中央・宇都宮のそれぞれのリーダーに人数確認を支持する。その間に、私はスパッツを装着し、準備をする。</p> <p>班のほうに戻って、装備の確認をする。ピッケルやスコップの確認も同時に行ったと思う。</p> <p>今回の訓練の趣旨を説明する。おそらく「今日は茶臼には行きません」「ラッセルといって、雪を踏み固めながら道を作つて進む方法をやります」といったことを言ったと思う。(明確なセリフは不明)</p> <p>レストハウス前を出発し、すこし進んだゲレンデの末端部分で、横一列に並ばせ、「すこし歩いて見ましょう」と指示する。</p> <p>すこし進んだ後、登山靴のソール部分に新雪が詰まってしまった時の対策法(ピッケルでソールをたたく)を伝え、実際に生徒たちにやらせる。</p> <p>「じゃああの(ゲレンデの中央にある)木のところまで歩いて見ましょう」と私が指示した。</p> <p>途中で遅れる生徒がいたため、宇都宮…私…</p>		
その他、関連することがあれば記入してください。			

[記録に当たっての配慮事項]

- 時系列での記録
- 正確な内容(事実と推察は区別する)
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 箇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	矢板中央	高等学校	
顧問氏名	[REDACTED]	記載者氏名	[REDACTED]
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自分や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
8:30ごろ	<p>矢板中央の順で歩く。最後尾の子が到着するまで、宇都宮高校の生徒に対して、「こういう雪があるところは行ったことあるの」と質問したと思う。それに対して、全員がないと答えた。</p> <p>■先生はスコップの装着があったので少し出遅れたため、■先生を除く全員がそろってから、耐風姿勢の説明と実践をする。</p> <p>第3班が樹林帯に入していくのを見て、私は『樹林帯ならば比較的雪崩の危険性もないだろう』と思い、「じゃあ少し樹林帯の中を歩いてみよう」と言う。生徒たちは、トレースをもとに歩き始める。</p> <p>急登を登りきり、3班が休んでいた少し開けた場所に出る。樹林帯の上限程度だろうと思った。宇都宮高校の生徒は更に上に行こうとしていたので、尾根筋の樹木の所まで戻し、雪を掘らせ、休憩させる。このときに3班が出発し、すれ違いざまに私が時計を確認する。</p> <p>3班最後の本島先生が通りすぎ、登り始めたところに、矢板中央の生徒もトレースをたどってくるのが見えた。</p> <p>その後、私の上のほうから声が聞こえた。</p>		<p>風はあったものの、常に吹いているというわけではなかった。雪は風に舞っている程度。</p>
その他、関連することがあれば記入してください。			

{記録に当たっての配慮事項}

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 箇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	矢板中央	高等学校	
顧問氏名	[REDACTED]	記載者氏名	[REDACTED]
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
8:30ごろ	<p>上を見ても、真っ白だったので、突風だと思い、「耐風！」と矢板中央の生徒に向かって叫んだ。その後、雪が流れていくのが見えたので、雪崩だと判断した。</p> <p>矢板中央の生徒3人が自分で雪から出てきた（下半身が埋まるか埋まらないかぐらいだと思う）ので、トランシーバーに「雪崩です、雪崩が発生しました」と叫ぶ。しかし、本体ランプが赤点滅だったので、画面を確認したところ、バッテリーアイコンが空で点滅していた。すぐに交信をやめ、生徒の安全確認に再度向かった。怪我の有無を確認し、特になかったので、すぐに宇都宮高校の生徒がいる場所に移動させ、待機させた。</p> <p>同時に雪崩の下流左（西）側のほうから、渡邊先生の声が聞こえ、真岡高校の生徒の数を確認する。このときに3・4班の生徒数も確認している。近くに腹部を強打した生徒（■）がいたので、雪崩部分の反対側の尾根上の木のところで待機させる。</p> <p>渡邊先生から、「生徒を安全なところに移動させてください」と指示があったので、3・4班の生徒を尾根筋の安全なところまで生徒を移動させる。</p>		真岡高校の生徒数確認で5分ほどかかったと思う。
その他、関連することがあれば記入してください。			

〔記録に当たっての配慮事項〕

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 箇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	矢板中央	高等学校
顧問氏名	[REDACTED]	記載者氏名 [REDACTED]
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等	
時間不明	<p>渡邊先生から「[REDACTED]先生、手を貸してください」(セリフ詳細不明)といわれ、一つ向こう側の沢を覗いたところ、雪面から3箇所、手が出ていたのが見えた。すぐに一番近くの手のところに行くと、菅又先生が雪に埋まっていた。足が雪にはまっていたので、足元の雪をどかす。自力で這い出ることができたので、次に、少し登ったところにある樹木に巻きつくように埋もれていた生徒を掘り出そうとする。腰の痛みを訴えていた。掘り出していると、清峰高校の手塚先生が応援に入る。手塚先生が生徒に「がんばれ」と声をかけながら、二人で雪から生徒を掘り出した。</p> <p>ある程度めどが立ったので、次に下に下りて、片足が埋まっていた生徒を救助。その際に、生徒から「この下から声が聞こえた」と聞かされ、堀りはじめる。</p> <p><ここから、とにかく雪を掘り、靴やピッケルを見つけると、その付近をさらに掘り進んだ。しかしながら、どこをどのような順番で掘ったのかについては記憶があいまいである。></p>	
その他、関連することがあれば記入してください。		

{記録に当たっての配慮事項}

○時系列での記録

○正確な内容（事実と推察は区別する）

○推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入

○箇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	矢板中央	高等学校	
顧問氏名	[REDACTED]	記載者氏名 [REDACTED]	
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
時間不明	レスキュー隊が到着する。私は、シバリングが起こり、さらに意識が朦朧としたため、救助活動から離脱。 生徒の下山に合わせて、私も下山した。		R隊到着直前までで、あと3人の居場所が分からぬ状況だった、と記憶している。(R隊到着と同時に1人発見されていると思う)
	レストハウス2Fに集められる。		
13:30	学校へ生徒顧問ともに無事だと電話連絡を入れる。		
13:48	生徒に携帯電話を貸し、それぞれの自宅に電話をかけるように指示する。(電話には出なかった模様)		
時間不明	那須赤十字病院へ移動。■先生を車に乗せ、二人で生徒の乗ったバスの後を追う。 病院到着後、診察を受ける。■と■は保護者が病院に迎えに来たため、無事に帰宅したかどうかを電話で確認した。■は■・■とともに、矢板中央高校へ移動。		
22:00 ごろ	■の保護者が学校に到着。引渡し。		
その他、関連することがあれば記入してください。			

(記録に当たっての配慮事項)

- 時系列での記録
- 正確な内容(事実と推察は区別する)
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 箇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学 校 名	矢板中央 高等学校		
顧問氏名	[REDACTED]	記載者氏名	[REDACTED]
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
※27日の起床か ら帰宅まで	※天候や場所、自分や生徒、他の教員の発言や 行動等について、時系列で具体的に記載する。 (本人以外の言動については、氏名も記載)		
起床 (5時00分)	駐車場、車中で起床。雪が降っていることを窓 から確認した。外に出て車に雪が積もったこと を確認した。(車の上に15センチくらい) 生徒のテントの様子を見に行く。テントの外か ら声をかけ、その際7時30分まで時間を遅ら せて様子を見る旨の連絡があったことを聞く。 (テントの中からの声だったのでわからない が、2年生の[REDACTED]だと思われる。		
(6時20分ごろ)	車の中で待機中、隣に駐車していた矢板中央高 校[REDACTED]教諭が車に近付いてきたので声をかけ る。今日の行動を聞いたところ7時30分から 実施する旨を聞く(この時はラッセルについて は話していない)		
(7時20分ごろ)	急いで準備をしてレストハウス前に集合する が、少し遅れる。		
(7時30分ごろ)			
※27日起床か ら帰宅まで			
その他、関連することがあれば記入してください			

(記録にあたっての配慮事項)

- 時系列での記録
- 正確な内容 (事実と推察は区別する)
- 推察については「と思った」「ように見えた」等わかるように記入
- 箇条書き・簡潔な分で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学 校 名	矢板中央 高等学校		
顧問氏名	[REDACTED]	記載者氏名	[REDACTED]
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自分や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
※27日の起床から帰宅まで	※天候や場所、自分や生徒、他の教員の発言や行動等について、時系列で具体的に記載する。 (本人以外の言動については、氏名も記載)		
集合 (7時31分ごろ)	本日の行動内容が「ラッセル」に変更になった旨を4班の班長[REDACTED]教諭から聞く。 4班の生徒は班長の指示で持ち物の確認をする。宇都宮高校の生徒一名分ピッケルが足りなかつたので、矢板中央のピッケルを貸すためにテントまでピッケルとスコップを矢板中央2年の[REDACTED]に取りに行かせる。 もう一度装備の確認を行う。 猪瀬委員長から顧問は無線機を持っていくよう言われる。		
活動開始 (7時35分ごろ)	4班レストハウス前から出発。ほかの班はすでに出発しており、4班は最後の出発となる。		
※27日起床から帰宅まで			
その他、関連することがあれば記入してください			

(記録にあたっての配慮事項)

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等わかるように記入
- 箇条書き・簡潔な分で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学 校 名	矢板中央 高等学校		
顧問氏名	[REDACTED]	記載者氏名 [REDACTED]	
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自分や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
※27日の起床か ら帰宅まで (時間は不明)	<p>※天候や場所、自分や生徒、他の教員の発言や行動等について、時系列で具体的に記載する。 (本人以外の言動については、氏名も記載)</p> <p>樹林帯に入り斜面を登っていたところ、上方から「雪崩だ」という声が聞こえた。(誰の声なのかは不明)</p> <p>左手の沢を見ると下半身が埋まった生徒(真岡高校の生徒)が確認でき、背中のスコップを外して救助に向かう。</p> <p>沢筋は危ないので尾根筋に上がるようすに真岡高校渡辺教諭が言ったので救助した生徒と私は反対側の尾根筋に上がる。</p> <p>私の位置よりも高いところで人数の確認を行っていたので、そこに合流するため尾根筋を登る。</p> <p>誰の声かわからないが、大田原高校が流されたという声が聞こえてきた。</p> <p>別の沢筋に埋まっている人間が確認でき、スコップで掘り起こした。</p>		
※27日起床か ら帰宅まで			
その他、関連することがあれば記入してください			

[記録にあたっての配慮事項]

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等わかるように記入
- 箇条書き・簡潔な分で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学 校 名	矢板中央 高等学校		
顧問氏名	[REDACTED]	記載者氏名	[REDACTED]
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自分や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
※27日の起床か ら帰宅まで (時間は不明) (時間は不明) (時間は不明) (時間は不明) (時間は不明)	<p>※天候や場所、自分や生徒、他の教員の発言や行動等について、時系列で具体的に記載する。 (本人以外の言動については、氏名も記載)</p> <p>無線機で猪瀬委員長に1班で確認できている人の名前と状態を報告する。(2班班長渡辺教諭の指示による)</p> <p>救助と待機している生徒の状態を確認している間に矢板中央高校へ携帯電話で本校生の状況を報告する。</p> <p>救助隊が向かっている旨の無線から聞こえる。 2班班長渡辺教諭の指示で待機している生徒に救助隊に位置を知らせるためホイッスルを吹くように指示が出る。</p> <p>猪瀬委員長から無線で「救助隊は確認できるか聞かれるか」とのやり取りを繰り返す。</p> <p>救助隊が到着し、自力で下山できる生徒と共に下山を開始する。</p> <p>リフトを使いレストハウスの2階に下山した生徒・顧問が集められる。</p>		
※27日起床か ら帰宅まで			
その他、関連することがあれば記入してください			

[記録にあたっての配慮事項]

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等わかるように記入
- 箇条書き・簡潔な分で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	矢板中央 高等学校	
顧問氏名	[REDACTED] [REDACTED]	記載者氏名 [REDACTED] [REDACTED]
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等	その他の特記事項
※27日の起床から 帰宅まで (20時5分ごろ)	※天候や場所、自己や生徒、他の教員の発言や行動等について、時系列で具体的に記載する。(本人以外の言動については、氏名も記載) スキー場を出発し、大田原赤十字病院に向かう(教諭の車で移動) 赤十字病院で身体の状態を聞かれる。 生徒と移動手段が違ったので、生徒を探す。 [REDACTED](2年生)はバスにおり、[REDACTED](2年生)と[REDACTED](1年生)は保護者が直接迎えに来た旨、教諭から報告を受ける。	
(22時ごろ)	[REDACTED](2年生)を矢板中央高校まで送り、保護者が学校まで迎えにきて、生徒を引き渡す。	
帰宅 (11時10分ごろ)	那須塩原駅まで家族に迎えに来てもらい帰宅。	
※27日起床から帰宅まで		
その他、関連することがあれば記入してください		

[記録にあたっての配慮事項]

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等わかるように記入
- 箇条書き・簡潔な分で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	栃木県立真岡女子高等学校		
顧問氏名	小林 朋生	記載者氏名	小林 朋生
時系列 (覚えていれば 時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
※27日の起床 から帰宅まで	※天候や場所、自己や生徒、他の教員の発言や行動等について、時系列で具体的に記載する。(本人以外の言動については、氏名も記載)		
5:00	寝袋に入れて暖めておいたスマホの目覚ましで起 床		
5:40	生徒が朝食のカレーうどんと昼食のパンケーキを 顧問のテントまで持ってきてくれ、食事をとる。		
6:00	テントの外から「指示があるまでテントの中で待 機していくください」との声掛けを聞く。		
6:49	センターハウスのトイレに向かうため、テントの 外に出る。夜の間に雪がたくさん降ったことに驚 き、スマホのカメラで写真を2枚撮る。雪は小降り で風はなし。		添付写真①②
6:52	センターハウス手前で写真を1枚撮る。雪は小降り、 風はなし。		添付写真③
7:00	トイレを済ませ、テントに戻る。生徒達がテント から出ていて、 小林「テントが雪の重みで潰れてしまうから雪を 払っておいて。この雪だと今日は待機かな」 生徒「え? 7時30分に集合と言つてました」 小林「そうなんだ? トイレに行って聞いてい なかつた。じゃあ忘れ物がないよう準備してお いて」 生徒「わかりました。」		
7:20	テント内で装備を調べ、外に出る。生徒もテント の外に出るがテントのチャックが閉まらず手間取 る。		
7:25	小林を先頭に、生徒4人とセンターハウスに向かう。 センターハウス到着。雪は小降り。風なし。		
7:30	軒下で、顧問の先生方や生徒達がすでに集まつ ていた。 猪瀬先生「昨日の判別研修のリーダーだった先生 方、こちらに集まってください。」		

7:35

一人足らず、誰がいないのか探していたら、矢板中央高校の[]先生が車に荷物を取りに行っていたらしく、遅れてきた。

猪瀬先生から班のリーダーの先生達に今日の講習の内容を説明。

猪瀬先生「この積雪なので、茶臼登山は中止したいと思います。スキー場内を歩く訓練に変更したいと思います。例年は、最終日は学校別の行動ですが、昨日講習を受けた班で実施したいと思います。雪もしっかりあるのでラッセルの練習になると思います。」

小林「時間は何時くらいまでですか？」

猪瀬先生「テントの撤収時間もあるので、9時か9時半頃までいいと思います。」

小林「閉会式はどこで行いますか？」

猪瀬先生「いつもは東屋付近で行っているけれど、今年はどうかなあ。閉会式は今回はやらないで解散になるかもしれません。」

センターハウスの入り口の窓に貼ってあるスキー場のコース地図を見ながら、

渡辺先生「この辺(第2ゲレンデ・第3ゲレンデの奥)は雪の付き方から雪崩の危険性があるので近づかないよう指導お願いします。」

小林「私は初めてなんですけど、どの辺りで行動すればいいですか？」

猪瀬委員長「女子隊は第1ゲレンデ付近をぐるっと歩けば、十分だとおもいますよ。」

菅又先生「雪の上を歩き続けると、靴の後に雪の塊がついて歩きにくくなるので、時々ピッケルで靴をたたいて雪を落とすといいですよ。」

7:40

班のリーダーの先生達とところに生徒を集めます。

班のリーダーの先生から生徒達に行動内容と終了時刻を伝え行動開始。雪は小降り。風なし。

男子達は班によっては横一列に並び一斉にラッセルをしていましたり、雄叫びを上げながら第2ゲレンデ方向にダッシュしたりしていてとても微笑ましい光景だった。写真を撮ろうと思い、スマホを胸ポケットから取り出ましたが、寒さのため起動せず。

小林率いる5班は小林を先頭に、真岡女子4人、矢板東2名の順で、縦1列に並び、第1ゲレンデ方向にラッセル開始。かなり疲れるので、先頭を順次入れ替ながら進む。

- 進行方向の指示を間違え、第1ゲレンデを左に進まず、林と林の間の急登を登ってしまう。
- 8:00 急登を登り切り第1ゲレンデに到着。なだらかなところで休憩を入れる。雪は開始時よりは強くなり、風も出てきて顔に当たる雪が痛かった。
- 真岡女子の生徒達は写真を撮ろうとスマートを取り出しが、寒さのため起動せず。
- 矢板東の生徒達は雪の中に大の字になって埋もれ、スマートのカメラで写真を撮っていた。
- 矢板東の生徒達は真岡女子の生徒達の写真も撮ってくれ、後にLINEで送る約束をしていた。
- 第2ゲレンデにはつんと1本だけ立っている木の近くで休憩している男子を見かける。視界は良好。
- 先生無線「これから4（？）班は樹林帯に入ります」
- 8:10 行動再開。時間調整のため、第1ゲレンデ奥へ進み、Uターン。男子が休憩していた木を目指して進む。真正面から風を受け、雪が顔に直撃し痛い。
- 第1ゲレンデを抜けたときには男子達の姿は見えなくなっていた。
- 木に到着し、第2ゲレンデ上方に方向を変える。斜度がきつくなりスピードが落ちる。かなり上に男子の姿が見えた。
- 第2ゲレンデ斜面で休憩を入れる。
- 8:30 生徒達と談笑をしていると
- ？：？？ ■先生無線「雪崩れました」
- 音も静かで、雪煙なども見えず、どこで雪崩が起こったのかまったくわからなかった。
- ？：？？ 渡辺先生無線「雪崩で1班の生徒何名かが雪崩れに巻き込まれた模様。本部応答願います。」
- 緊迫した空気が流れた。
- 小林「2次災害の恐れもあるので、君たちはすぐに降りてテントの中で待機していくください。先生はヘルプに行きたいと思います。」
- 途中まで生徒達と一緒に滑り台なども混ぜながら斜面を下り、もう一度登り返す。
- その間も何度か渡辺先生から本部に向けての無線があったが、誰も応答せず。
- 場所が悪く無線が入らないのかと思い、私が中継

役をしてみようと本部に無線を何度か入れるが応答なし。

本部と連絡が取れないことに不安を覚え、このまま登って雪崩の現場に向かうか、本部に向かうか悩み、現場は男子隊の先生方に任せ、降りる方を選択。

9:00

急いで、第2ゲレンデを下りセンターハウスに到着。小林無線「渡辺先生。小林はセンターハウスに到着しました。指示お願いします。」

渡辺先生無線「まず、そこから本部に無線を入れてください。」

何度も本部に無線を入れるが応答なし。

小林無線「渡辺先生。ここからでも駄目でした。」

渡辺先生無線「では、そこから徒歩で本部に向かい、猪瀬先生に雪崩れに生徒が巻き込まれたので消防・警察に緊急出動を要請してください。」

スマホを取り出すが、寒さで起動せず。

急いで階段を下り、車道を歩いて登る。

途中、バスに抜かれる。

9:15

本部ニューおおたかに到着。駐車場で車に荷物を積み込んでいる猪瀬先生を見つけ、

小林、「猪瀬先生、緊急事態です。生徒達が雪崩に巻き込まれたと渡辺先生から連絡がありました。消防と警察に緊急出動を要請してください。」

猪瀬先生無線「渡辺先生。状況を知らせてください」

9:20

猪瀬先生がホテルおおたかの電話を借り消防に通報。

警察にはホテルおおたかの電話を借り、小林が通報。

那須塩原警察署 [REDACTED] さんからおおたかへ電話あり。小林受け。

那須塩原警察署 [REDACTED] さんからおおたかへ電話あり。小林受け。

9:40

真岡女子高加藤主幹から小林スマホに不在着信あり。

寒さでスマホはまだ起動できていなかったので応答できず。

那須塩原警察署からホテルおおたかの電話あり。小林受け。

？：？？

- ？：？？ 矢板東高潮田教頭からホテルおおたかへ電話あり。
小林受け。
- ？：？？ 真岡女子高根本教頭からホテルおおたかへ電話あり。小林受け。本校生と教員の無事を伝える。
- 高体連の無線で現場の情報を収集し、中村校長・根本教頭に報告。他校にも状況を連絡してもらうように依頼。
- 10:40 矢板東高校関谷先生から小林スマホに不在着信あり。
- ？：？？ おおたかさんから iPhone の充電器を借りて、充電開始。
- 11:22 真岡女子高根本教頭から小林スマホに着信あり。
小林受け。
- 11:37 小林から矢板中央高校へ連絡。
真岡高校菊池校長から小林スマホに着信あり。小林受け。
- ？：？？ 警察の方が2名ホテルおおたかに来て、事情を説明。
- 13:30 事情聴取終了。
テントに残した生徒が心配だったので、スキー場へ向かう。
- 大丸駐車場で大田原高校が予約していた那須観光の大型バスを見かけ、小林から声をかける。
- 那須観光3名駆けつけてくれ、一人は軽乗用車で来ていたので、スキー場まで小林を乗せてくれた。
- 規制がはられ、いろいろ説明してもスキー場に戻れず。
- 大丸駐車場にある那須観光の大型バスで待機させてもらう。
- 矢板東高校関谷先生が大丸駐車場に到着。那須観光の大型バスに同乗。
- 高体連の無線やスマホを使って、スキー場内にいる先生方と連絡。
- 埼玉消防が大丸駐車場に到着。
「真岡女子の生徒は無傷なので生徒は帰して欲しい」と警察に伝えて欲しいと依頼。

14:22	男子生徒達が事情聴取を受けていることをスキー場内にいる先生から連絡を受ける。 全員事情聴取が済めば解放してくれそうとの連絡あり。
14:53	小林スマホから生徒スマホに連絡。 「もう少しで帰れそうだから、頑張って」と伝える。
17:22	帰れそうとの連絡をもらったのに動きなし。
20:09	小林スマホから生徒スマホに連絡。 生徒「やっとバスに乗りました。まだ動き出してあまり時間は経っていません」
21:30頃	ピューロマンのバスが那須日赤に到着。 宇都宮高校5名を下ろし、真岡女子高へ出発。
23:30	真岡女子高着。生徒達を保護者に引き渡す。 校長先生と教頭先生たちに報告。
24:40	校長先生と教頭先生がタクシーを呼んでくださいり、 タクシー乗車。
25:15	帰宅。

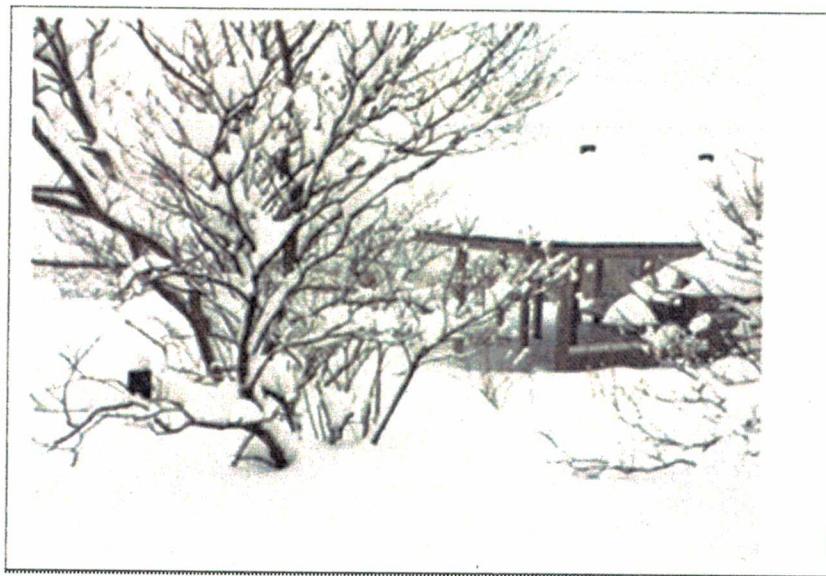
その他、関連することがあれば記入してください。

(記録に当たっての配慮事項)

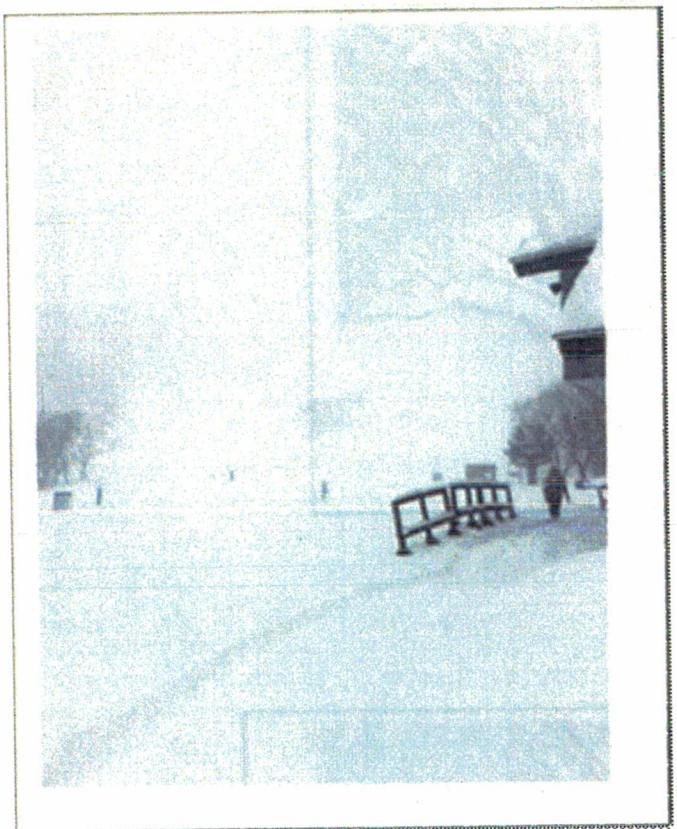
- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 箇条書き・簡潔な文で記載願います。



添付写真①



添付写真②



添付写真③

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	栃木県立大田原高等学校		
顧問氏名	猪瀬 修一	記載者氏名	堀江 幸雄
時系列 (覚えていれば時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
※27日の起床から帰宅まで	※天候や場所、自己や生徒、他の教員の発言や行動等について、時系列で具体的に記載する。(本人以外の言動については、氏名も記載)		
起床 (5時30分)	ニューおおたか210号室。雪。		
状況確認 (5時50分)	携帯電話で本嶋先生(清峰高)とテント場の状況を確認。雪がかなり積もっていることを知った。とりあえず待機させることで合意した。		
相談 (6時頃)	携帯電話でテント場の菅又先生(真岡高)に連絡した。菅又先生、渡辺先生(真岡高)と相談し、茶臼岳登山中止を決定した。菅又先生と渡辺先生からラッセル訓練の提案があり、3人で話し合って決定した。菅又先生に、生徒へ集合時間を7時から7時30分へ変更することを伝えるよう依頼した。		
旅館出発 (7時10分頃)	自家用車の雪を下ろした後にスキー場へ出発した。		
スキー場ロッジ到着 (7時20分頃)	到着後、菅又先生、渡辺先生と話し合い、以下の3点を確認した。 (1) 8時前に出発し9時半にロッジ前に戻る。10時にテント撤収を開始する。 (2) 天候は終日雪の模様。 (3) 第2ゲレンデ上部の危険なエリアには立ち入らない。		
講師全員で打ち合わせ (7時30分頃)	ロッジ前で菅又先生が(1)~(3)を全講師に説明した。		
生徒集合 (7時40分頃)	弱い雪。無風。 ロッジ前に班ごとに生徒集合完了。菅又先生から茶臼岳登山の中止と班ごとにラッセル訓練を行うことを伝達した。		ホテルへ戻ってからは、トランシーバーがどこにあったかについて記憶は定か
生徒出発 (8時頃)	ぱらぱらと雪が降る。弱風。 班ごとに一斉に出発するのを見送り、自家用車でニューおおたかへ戻り、朝食。部屋を片付け、自		

	家用車に荷物を積み込み、1階のフロントで精算した。	ではない。車に荷物を積み込んだ時に、一緒に車に入れたままフロントに戻って精算をしたと思う。
雪崩発生		
雪崩発生の報告 (9時15分頃)	小林先生(真女高)がニューおおたかに徒歩でやって来て、雪崩発生を報告した。	
救助要請 (9時20分頃)	ニューおおたかの電話で110番通報を行った。その後自家用車でスキー場へ急行した。	
スキー場到着 (9時25分頃)	到着後、各班の講師へ無線で呼びかけた。渡辺先生から応答があり、現場の状況報告を受けた。	
警察官到着 (9時30分頃)	スキー場に到着した2名の警察官に状況を伝えた。	
この後の時間については、記憶なし。 雪は間断なく降っていたと記憶している。 風についての記憶はなし。	雪崩による被災地点にいる渡辺先生、[]先生(矢板中高校)、[]先生(矢板中高校)から無線で現場の状況報告を受けた。受けた報告を救助の消防署員に伝えた。	
	雪崩による被災地点と思われる場所を消防署員に説明した。所員たちは徒歩で現場へ向かった。	
	各班の講師名、生徒名などを消防署員に伝えるなど救助活動の補助を行った。	
	随時、無線で救助現場と交信し、状況の把握に努めた。	
	随時、携帯電話で学校に状況を報告した。	
	歩いてロッジまで降りてこられる33名がロッジへ戻ってきた。33名の生徒たちの名前を名簿で確認するよう池間先生(宇高)に依頼した。確認後、33名はロッジ2階で休憩。この中に本校生、[]と[]が含まれていた。	
	ロッジ1階で、順次搬送されてくる生徒と教員を確認した。確認順は、以下の通り。	
	[] → [] → [] → [] → [] [] → [] → [] → [] → [] 毛塙優甫 → []。[]の搬送はすいぶん遅く、6時か7時頃までかかったと記憶している。	
	事故を聞きつけて駆けつけた島田先生(宇東高)が	

	ロッジ2階の33名をバスで下山させるよう手配を行った。小グループで順次下山を開始。全員病院へと向かった。
下山 (8時50分頃)	33名全員の下山を確認後、自家用車で下山した。
大田原高到着 (9時30分過ぎ)	到着後、校長が病院周りをしていたため小会議室で待機した。教頭に教頭に状況を報告した。
状況報告 (1時30分過ぎ)	校長と教頭に状況を報告した。山岳連盟の[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]が同席した。その後渡辺先生と[REDACTED]先生が合流した。翌日、生徒のテントなどの引き上げの打ち合わせを行い、人員を手配した。手配は主に後藤先生と鳴田先生が行った。
解散 (4時頃)	打ち合わせ終了。保健室で就寝した。

その他、関連することがあれば記入してください。

[記録に当たっての配慮事項]

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 簇条書き・簡潔な文で記載願います。

3月27日の状況等に係る記録用紙

学校名	栃木県立宇都宮高等学校		
顧問氏名	池間 明徳	記載者氏名	齋藤 宏夫
時系列 (覚えていれば時刻を記入)	自己や生徒・他の教員の行動等		その他の特記事項
2:00~4:00頃	雨よけのフライを滑り落ちる雪の音で何度も寝覚める。そのたびに雪がフライに当たる音を聞いた。テントの全周に滑り落ちた雪がたまり、寝ても圧迫感を感じた。		
4:30頃	起床		
5:00頃	生徒のテントを回って朝食時のラジウス使用について指導。相当量の積雪を確認。自分と生徒のテントの間に雪を踏み固めて作っておいた道を移動する際、すねの中程まで雪に埋まった。(今日は中止になるだろうと思った。)		
6:00頃	テント内で「テントで待機」の指示を聞く。(誰の声かは不明。) 生徒に待機を確認。降雪の程度や風の強さから考えて、茶臼岳登山はなし、迎えのバスが来るまで待機だと確信したこともある。自分のテント内で食事後、シュラフにくるまって寝てしまった。	本校の池間教諭は、今回は指導にあたる講師ではなかったため、本部の打ち合わせやラッセルには参加していない。	
7:00頃	(2年生で [] 君から28日の昼に聞き取ったところでは、「昨日と同じ装備をして7:30にロッジに集合」の指示の声がテントの外からあったとのこと。[] 君は昨日と同じ内容が行われると思ったとのこと。)	10:20頃、県警から教頭に電話で事故についての第1報。	
10:30頃	宇都宮高校の青木茂実教頭から携帯電話に着信。事故の発生を聞いた。生徒の安否を聞かれたが、全員テント内で待機している旨を伝えた。	10:35頃、警察からの電話。	
10:45頃	教頭から電話。参加者名簿が職員室の池間の机上にあると伝える。	10:42 大田原高校の植木校長から、小職の携帯に連絡。「緊急事態発生。那須ファミリースキー場で雪崩。宇高生は全員無事」とのこと。	
時間は不明確	生徒のテントを回る。1年生が訓練に参加したことを初めて知る。(この頃、[] 君ら2年生はヘリコプターの音と、スマホのネットを見て事故の発生を知ったとのこと)		
	本部のあるロッジへ移動。猪瀬委員長からラッセル中に事故が発生したが宇高生は全員無事と聞く。「尾根の上に上がるとは思わなかった」との委員長の発言あり。本部業務に協力するため無線機1台を預かる。		
10:50頃	2年生のテントに戻る。2年生と1年生がLINEによって交信。1年生全員が無事と聞き、その旨を教頭へ連絡。		
時間は不明確	教頭から「2年生の [] の保護者から『1年生が負傷している』との問い合わせが学校にあった」とのこと。2年生に確認させたところ、1年生全員無事であることを確認。	11:00頃、職員室にいた10名程度の教員に校長から状況を伝える。	
時間は不明確	ロッジに戻る。警察や消防関係者から春山講習会	11:00過ぎ、2名の副顧問から保護者に全員無事である旨の	

	の概要や歴史、参加人数、ビーコンの所持などについて聞かれる。状況を把握していないため、名簿に基づく内容のみを答える。テントに戻り、2年生から実施要項を提供させて本部に提出。	連絡をした。
時間は不明確	猪瀬委員長から下山してくる人員の確認を指示されロッジの2階へ行く。2階に上がってきた生徒は氏名と所属をはっきりと答えることができた。 本校1年生8名の無事を確認。ただし、[REDACTED]君はリウトに乗って出発する際に、滑り落ちて鼻血を出していた。(後の診察で鼻骨骨折のこと。)生徒に自宅に連絡するよう指示。	14:00頃
時間は不明確	教頭に全員の無事を直接確認できた旨を電話した。2年生から携帯電話を通じて、寒いとの訴えと今後の対応への問い合わせ。テントに行って、ロッジには入れないのでシュラフに入って防寒するよう直接指示。	16:00過ぎに副顧問から保護者に連絡。結果的には帰宅方法や時間が錯綜。
時間は不明確	遭難者の人定の依頼を受けたが面識がないため猪瀬委員長に確認してもらった。	
時間は不明確 時間は不明確	2年生がロッジに入って暖をとれるようになった。生徒の移送について情報が錯綜して二転三転した。最終的にはラッセルに参加していた1年生8名が先に那須日赤に移動し診察を受けることとなった。2年生は別のバスで日赤に向かう。池間教諭は荷物を運ぶために乗ってきた自家用車で追尾するつもりであったが、雪に埋もれていて出発に手間取った。このため1・2年生が日赤を出発する際には[REDACTED]君からの電話連絡で状況を確認。以前から腰を痛めていた1年生の[REDACTED]君と鼻を負傷した[REDACTED]君は日赤から保護者の迎えで帰宅し、他の1名はバスで学校に向かった。	
20:00頃	マイクロバスが学校に到着。	
時間は不明確	池間教諭も学校に到着。	
23:10頃 23:20頃	生徒の無事を確認。校長から保護者にお詫びと迎えの御礼。明日の昼に生徒と保護者に集まつてもらい、状況の説明等をする旨を伝えて生徒は解散。その後、校長室にて、校長、教頭、主幹教諭、副顧問ら教諭3名に池間教諭から概要を報告。明日の対応を協議して解散。	
23:45頃	学校を自家用車で出発。	
0:20頃	(現場に残してきた備品の回収については他校の職員が行う旨のメールが入る。) 帰宅	

その他、関連することがあれば記入してください。

上記以外にも、池間教諭と学校との間で何回も電話のやりとりがあった。また、本校生以外の遭難者に対応していた時間や内容等は不鮮明である。

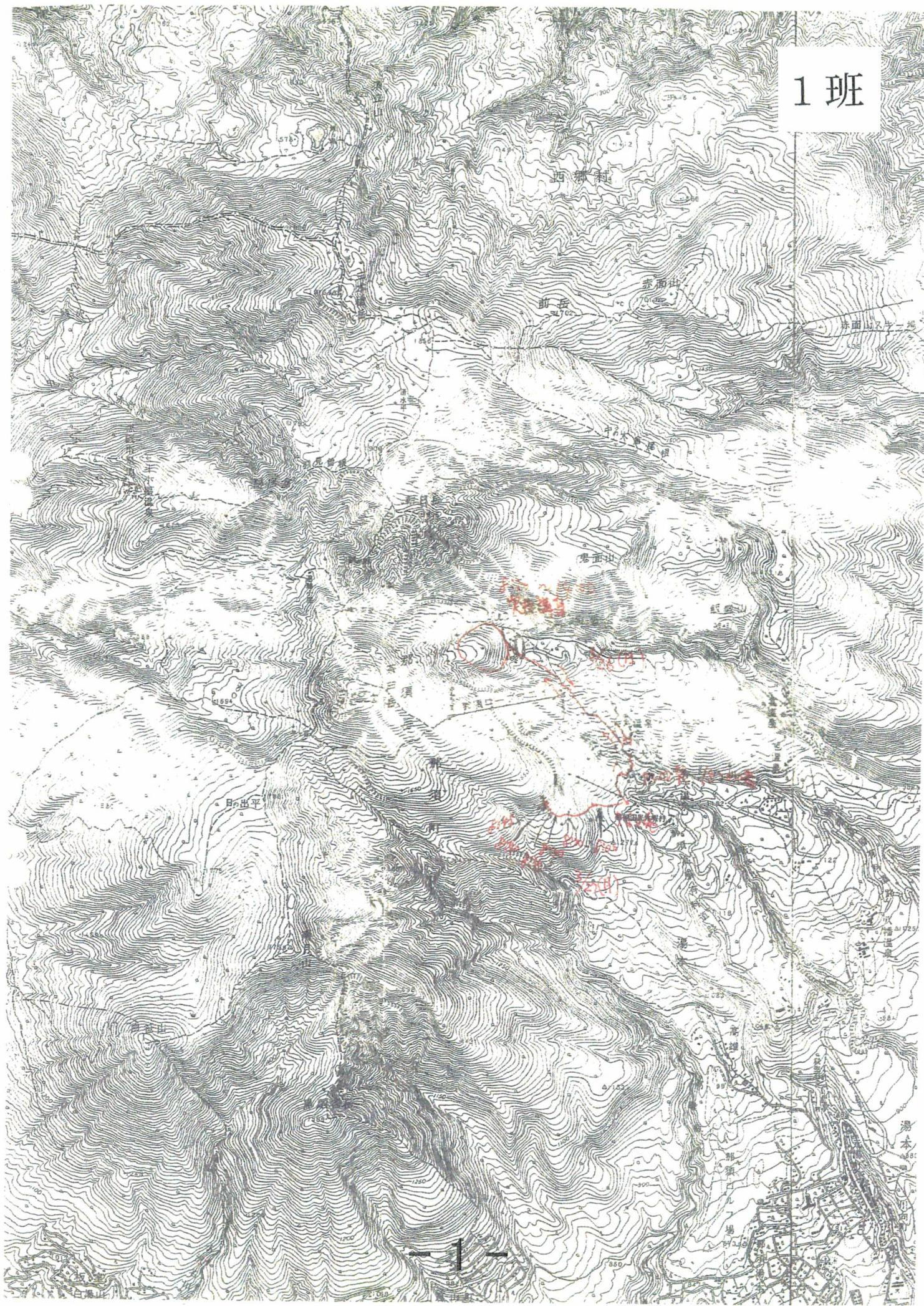
[記録に当たっての配慮事項]

- 時系列での記録
- 正確な内容（事実と推察は区別する）
- 推察については「と思った」「ように見えた」等分かるように記入
- 箇条書き・簡潔な文で記載願います。

基本調査資料 各班の行動地図

第1班 (大田原高校)	菅又久雄	… p 1
第2班 (真岡高校)	渡辺浩典	… p 2
第3班 (矢板東高校・那須清峰高校)	澤村哲史	… p 6
	本嶋佑己	… p 7
	手塚勝紀	… p 9
第4班 (矢板中央高校・宇都宮高校)	[REDACTED]	… p 11
第5班 (真岡女子高校・矢板東高校)	小林朋生	… p 12

1 班







実際に雪崩の起こった場所は見えていなかった。

班別の集合

- ②宇高は前日の訓練で装備がぬれているため本訓練には不参加を決定

8:00

出発

- 菅又 「2班は茶臼岳まで行くぞ」
生徒たち「マジですか」
渡辺 「先生はいつでも本気だぞ」
と冗談を交わした

A

②の行動

グレンデから左方樹林の尾根にてラッセル行動開始

先頭が斜面の傾斜が緩やかになったところに到達したときそこで止まって待機するように指示(渡辺)

順次後続が到着

渡辺到着後 []、[]を待つ

その間に風が出てきたことにより下山を決断

最後に上がってきた []の状況(すぐに行動できるかどうか)を確認し尾根伝いに下山を開始

その際上方に①と思われる隊列を確認している

8:30

雪崩発生

雪崩に巻き込まれる

渡辺は自力脱出

[]の姿を確認

③の []が []の近くにきてくれた

渡辺が②の他のメンバーを搜索

この際上方に③④のメンバーの姿を確認→人員点呼をしていた模様

渡辺が []と思われる教員に真高の生徒がいるかどうかの確認を依頼

[]と思われる教員が「真高いるか」と声を上げた

[]と思われる教員から「真高全員います。」との報告を受けた。

[]と思われる教員から「[]がいない」との報告有り

[]と思われる教員から「やはりいました」との報告有り

③④班の人員点呼完了を確認

渡辺が近くにいた []に雪崩の第2派を避けるために沢筋から離れて尾根上に待機するように指示。

B

渡辺は②の集団の中の後方に位置

C

D

これらの動きの中で主任講師の菅又を無線で呼ぶが応答無し
→本部の猪瀬を無線で呼ぶが応答無し

E

同様の指示を③④に指示。この指示が真高生にも届いたと思われる

この際真高生の中に自力歩行ができない生徒がいるとの報告を[]と思われる教員、あるいは真高リーダーの[]から受けた。

この時点で雪崩に襲われたのは②～④と判断

尾根の向こう側から「おーい」との声が聞こえたので②～④の誰かの声であると判断

本部と連絡が取れない、自力歩行ができない者がいることから自力歩行が可能な者が不可能な者を補助しながら自力で下山する必要があると判断した。

渡辺が他の者を待機させたまま一人で下山ルートの搜索を開始

ある程度降りて下山の見込みがついたところで引き返す

戻った際に、先ほど「おーい」の声がした方向で[]が菅又を救出、他の教員が他のメンバー数名の救助活動をしていることを確認した。その時点で①も雪崩に巻き込まれていたことを認識する

自力脱出ができないので②～④よりも深刻な状況であることを認識した

救助要請の必要性を感じ、小林に無線で救助要請を依頼

自身も救出活動に加わる

小林「本部とつながらない」との無線が入る

渡辺「本部まで直接行って救助要請をしてもらってくれ」と指示する

そうこうしているうちに本部とも無線がつながる

渡辺が無線で位置を猪瀬に伝える

救助隊が上がってくるとき「おーい」と発声

救助隊「見えますか?」との問い合わせ

笛を持っている者に笛を吹くように指示

救助隊が到着

救出作業開始

自力歩行が可能な者は救助隊と共に下山

自力歩行不可能であった[]と共に下山

レストハウスに到着後学校への電話連絡

警察の事情聴取

搬送されていない生徒たちの帰りの手段の手配等

他の生徒と共に病院に搬送されて診察を受ける
船越（真高教員、現地派遣教諭）に生徒たちを

①からは無線連絡がないので①は行動していると推測し「おーい」の声は②～④の誰かの者と判断←真高の人員確認の際に確認が2転3転していたことから

F

どの時点かは不明確だが渡辺の無線連絡を小林が傍受していて小林から呼びかけがありそれに応答

G

[]は自力歩行不能者のうち最後の救出者

H

① 8:00 = "3
集合・出発

② 8:15 ~ 20 =
木を越えて
林の手前?"
休憩

③ 8:30 ~ 40 =
少し平地に
入り
開けた所で
休憩

8:45 = "3 01
④ 雪崩発生

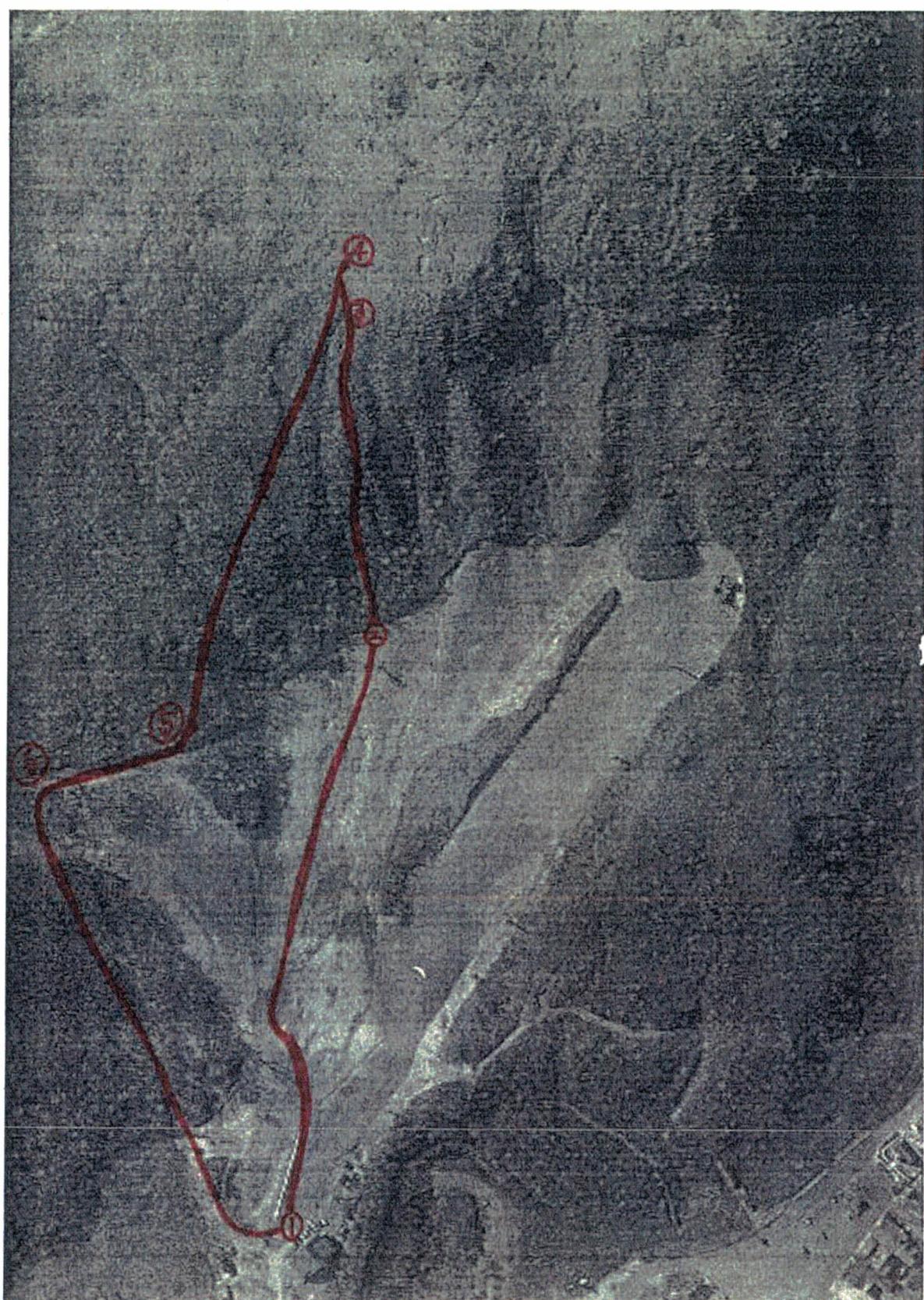
11:45 = "3 11
救助隊員
平野まで
人員確認
安全確保
不明者捜索

⑤ 12:00 = "3
下山開始

⑥ 12:30 = "3
スキ場に
あります

⑦ 12:45 = "3
リストで下山

⑧ 13:00 = "3
セイタヘウス
に入子。



3班

那須清峰高 本山島佑己



赤線
—雪崩前
青線
—雪崩後

Cにて5分休憩 Dにて10分休憩
Eにて~~夜出仕業~~ Fにてリフトに乗る

3／27 ワンダーフォーゲル部顧問の活動状況について

那須清峰高等学校<本嶋>

時 間	地図上の場所	活 動 状 況
7：30	A	管理事務所前集合。登山中止、ラッセル訓練の連絡。 ラッセル開始。
7：50	B	スキー場内。
8：00	C	スキー場内、樹林帯の手前。5分休憩。活動再開。
8：15	D	樹林帯内。10(5)分休憩。活動再開。
8：30	X	雪崩発生、生徒・顧問が巻き込まれる。 5分程度で3班の安否を確認した。
11：00	E	生徒を安全な場所に待機させ、他校の生徒が埋まっている所で救助隊が到着するまで救出作業を行う。
13：00	F	救助隊の先導によりリフト乗り場に移動。
13：30	A	リフトで管理事務所まで下りる。 管理事務所で生徒と待機。警察の事情聴取を受ける。

那須青峰高校 手塚勝紀



赤線 — 雪崩前
青線 — 雪崩後

A. 10分休憩 B. 5分休憩 X: 雪崩発生
C. 始点 — D. リフトへのる

3/27 ワンダーフォーゲル部顧問の活動状況について

那須清峰高等学校<手塚>

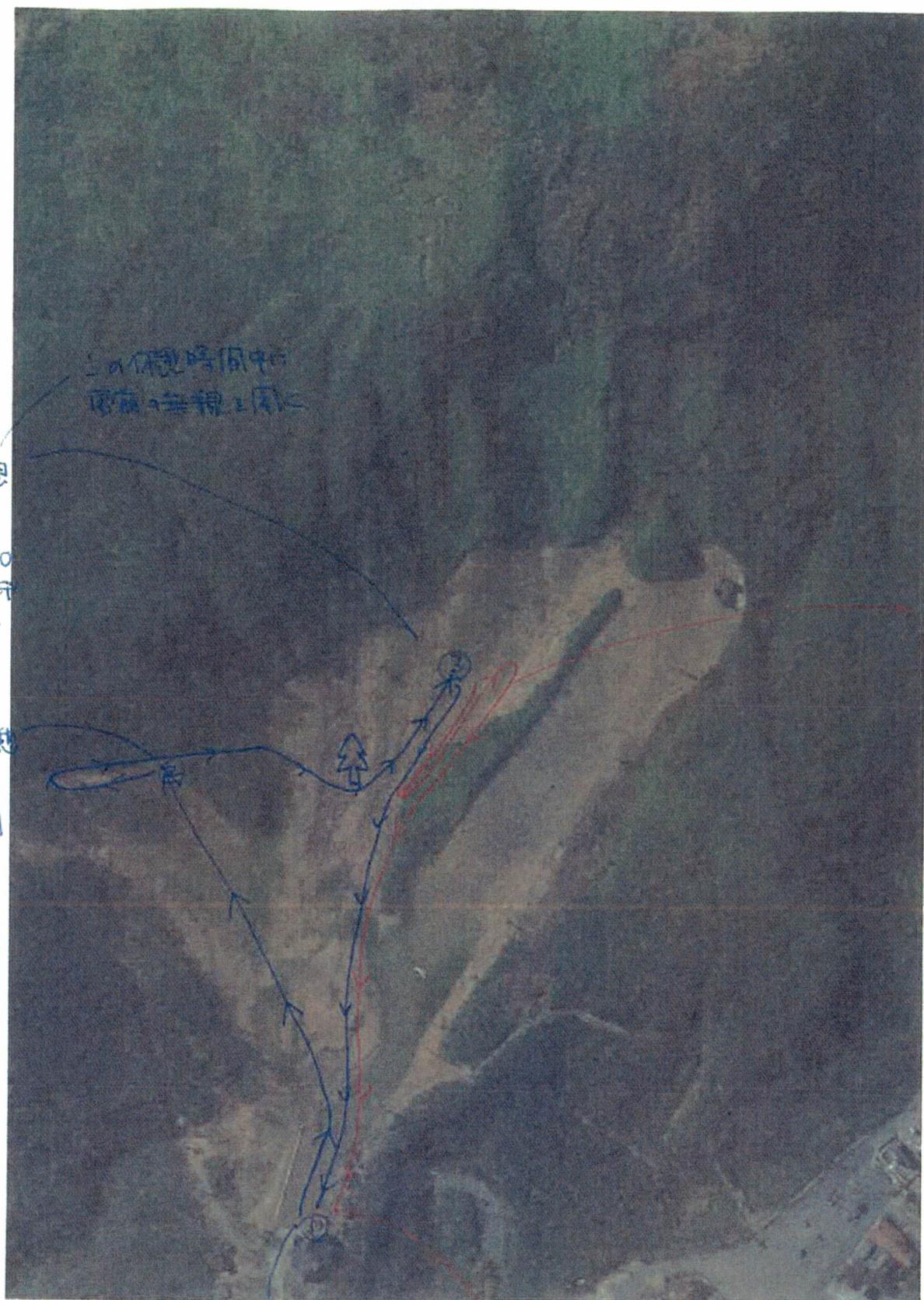
時 間	地図上の場所	活 動 状 況
7:45		管理事務所前集合。登山中止、ラッセル訓練の連絡。 ラッセル開始。
8:00	A	スキー場内を経由して、樹林帯の手前。10分休憩。 活動再開。
8:20	B	樹林帯内。5分休憩。活動再開。
8:30	X	雪崩発生、生徒・顧問が巻き込まれる。 5分程度で3班の安否を確認した。
11:30	C	生徒を安全な場所に待機させ、他校の生徒が埋まっている所で救助隊が到着するまで救出作業を行う。
13:10	D	救助隊の先導によりリフト乗り場に移動。
13:30		リフトで管理事務所まで下りる。 管理事務所で生徒と待機。

4班

平成29年4月11日



- 11 - 記入 [redacted] 教諭



① 7:30 集合
7:45 行動開始

12 -

小休
9:00 レストハウス着